

奄美群島日本復帰 70 周年記念リーフレットの活用方法 ～社会科の各分野や他領域との関連～

令和5年度コアティーチャーネットワークプロジェクト社会科部会では、奄美群島日本復帰に係る郷土学習と、社会科の各分野や領域の関連が分かれば参考になると考え、以下のように表に整理しました。また、授業のイメージとして、リーフレットを活用した授業の板書例を作成しました。ぜひ、参考にして、子供たちが郷土への理解を深める授業づくりをしましょう！

		東京書籍	学習指導要領
小学校	4年生	郷土の伝統，文化と先人たち	
	6年生	新しい日本，平和な日本へ	
中学校	地理分野	第1編 第2章 日本の姿	世界と日本の地域構成
		第3編 第3章 1節 九州地方	日本の諸地域
		第3編 第4章 地域の在り方	地域の在り方
	歴史分野	第7章 現代の日本と私たち	現代の日本と世界
	公民分野	第3章3節 地方自治と私たち	民主政治と政治参加
		第5章3節 これからの地球社会と日本	世界平和と人類の福祉の増大
終章 より良い社会を目指して		よりよい社会を目指して	

奄美群島日本復帰70周年記念リーフレットを活用した授業 板書例



奄美群島日本復帰 70 周年



調べる

【食べ物】	【お金・仕事】	【教育】	【その他】
《資料》 	《資料》  グラフ	《資料》 	《資料》  グラフ

気付いたこと・疑問

- 断食運動もしたんだ。
- 何のために？
- 奄美群島の99.8%の人が署名。
- たくさんの人が集まっている。

なぜ？
そこまでして？

共通点

- 日々の生活が苦しい。
- 先行きが見通せない。
- 必ず日本復帰をしたい。



めあて

奄美群島の人々は、なぜそこまでして日本復帰をめざしたのだろうか。

予想

- 生活が苦しかった。
- 食べ物が少なかった。
- 自由に生活できなかった。
- いろいろな制限があった。

方法予想

- リーフレット
- 教科書
- 電子紙芝居
- 資料データ

まとめ

奄美群島の人々は、生活苦等から日本復帰を目指し、集会や断食等を通して日本復帰を果たした。

令和5年度

学力定着のためのリーフレット 社会科編

=コアティーチャーネットワークプロジェクトまとめ=

大島教育事務所

大島地区の社会の課題



情報活用能力

社会的事象の課題を解決するために、複数の資料を関連付けて捉え、的確に説明する力

令和4年度鹿児島学習定着度調査結果分析

図 資料2と資料3は、これからの水産業のことを考えた漁業の様子です。これらの漁業を行うことで、水産業にかかわる人々にとってどのようなよさがありますか。その理由について「水産業にかかわる人々」と「とる」という言葉を使った下の□の中に書きましょう。

（資料2）とる漁業の様子

（資料3）さいばい漁業の様子

【小5 4(3)】
持続可能な漁業を目指した取組について、資料から読み取ったことを基に説明することができるか。

	通過率(%)	無答率(%)
地区	57.6	8.7
県差	+2.3	-2.6



「説明すること」については、他の問題でも、無答率が高い傾向にあります。

地区や県の通過率や無答率の結果から、示されている資料を関連付けて捉え、自分の言葉で説明することに課題があることが伺えます。

(4) 資料5は、日本の主な火力発電所の分布を表している。日本の火力発電所の多くが、臨海部に立地しているのはなぜか。資料6を参考にして、下の説明文中の(①)・(②)に当てはまる言葉をそれぞれ答えよ。

（資料5）主な火力発電所の分布 （資料6）日本の原油・石炭・液化天然ガスの自給率

（説明文）
火力発電所の燃料の自給率は(①)%で、燃料を輸入に頼っている。そのため、火力発電所の多くは、燃料を(②)に臨海部に立地している。

【中2 2(4)】
日本の発電所のうち、火力発電所の分布について、資料と関連付け、立地条件を説明することができるか。

	通過率(%)	無答率(%)
地区	58.0	8.3
県差	-4.7	-2.9

目指す授業

この単元を通して、目指す子供の姿

単元の終末には、戦後の日本が世界に復帰していく中でどのような歩みをしてきたのかを資料を基に捉え、そこで理解したことや考えたことを他者と共有する楽しさを味わう。



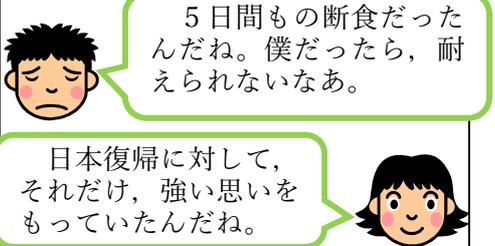
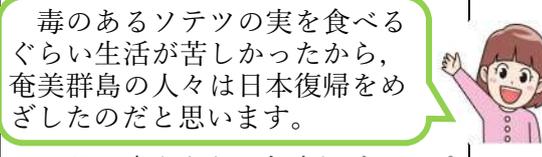
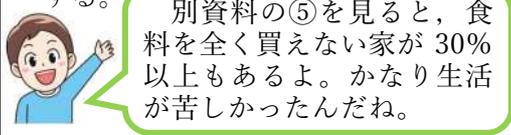
授業のポイント

- 【視点1】 児童の「なぜ」を引き出す導入の工夫
- 【視点2】 複数の資料から考えることのできる場の設定
- 【視点3】 関連付けたり比較したりしたことを基にした書く活動
内容の充実



授業モデル1 (第7章「新しい日本, 平和な日本へ」)

1 単元名	小学校第6学年「新しい日本, 平和な日本へ (1/7)」
2 目標	地図や資料を関連付けながら考察する活動を通して, 奄美群島の日本復帰に係る事象や奄美群島の人々がもっていた願いについて理解する。(知識及び技能)

授業充実の3ポイント	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ
【目標の明確化】 ○ 興味関心が生まれる導入 ○ 課題(問題)意識の焦点化 ○ 学習課題(問題)・めあての設定 ○ 解決の予想と見通し	1 奄美群島日本復帰 70 周年に関する写真を掲示する。  2 学習問題を焦点化する。 奄美群島の人々はなぜ日本復帰をめざし, どのように日本復帰を果たしたのだろうか。 3 予想を出し合う。	視点1 8	★ 本時が奄美群島についての学習であることを捉えさせるために, 奄美群島日本復帰 70 周年に関する写真を提示する。 ★ 本時の学習問題を焦点化させるために, 断食祈願の写真を提示し, 「今日から5日間, 断食をしなければならなくなったら, どう思うか。」と問う。 ○ 児童が主体的に学習を進めることができるようにするために, 児童の「なぜ?」というつぶやきを大切にして学習問題を焦点化する。 ○ 児童が意欲的に活動を行えるようにするために, 学習問題に対する予想を立てさせる。
【山場の工夫】 ○ 自力解決による最初の考えの構築 ○ 考えの共有(学び合い) ○ 自力解決による最終的な考えの構築	4 リーフレットや補助資料を使って自力解決を行う。  5 同じ考えをもつ友達とグループを作り, 考えをまとめる。 6 互いのグループの考えを交流する。  7 考えを交流して, 新たに気付いたこと等をまとめる。	視点2 22	★ 学習問題を解決させるために, 自分の考えの根拠となる資料を選択させたり, 資料から自分の考えをもたせたりする。 ○ 書いていない児童に自分の考えをもたせるために, 見るべき資料やそのポイントを示し, 書き方を助言する。 ○ 学習問題の解決に必要な考えを整理するために, 同じ考え方をもつ児童でペア・グループを作り, その考えについてまとめさせる。 ○ 多様な考えに触れさせるために, グループごとに発表させる。 ○ 本時の学習内容をまとめる時の材料にさせるために, 他者の選んだ資料とその根拠についても理解を深めさせる。
【確かめ・見届け】 ○ 学習のまとめ ○ 振り返り ○ 習熟	8 学習のまとめを行う。 奄美群島の人々は, 生活苦等から日本復帰をめざし, 集会や断食等を通して日本復帰を果たした。 9 振り返りを行い, これまで学習した内容と本時で調べた奄美群島の歴史や人々の願いを比較し, 自分の考えを表現する。	視点3 15	★ 本時で学んだことを児童が整理できるようにするために, 「なぜ」「どのように」日本復帰を果たしたのかを自分の言葉でまとめさせる。 ★ 自分の言葉でまとめることが難しい児童のために, 穴埋め形式のワークシートを用意しておく。 ★ これまでの学習で学んだ歴史と今後の奄美群島の発展について考えさせるために, 自分の意見を書かせる。

【コアティーチャーネットワークプロジェクト社会科部員】

園田 健一 (赤木名小)	上村 修 (宇宿小)	鮫島 玲奈 (和泊小)	川上 将敬 (名柄小)
釘崎 亮一 (笠利中)	三谷 芳大 (田検中)	中禮 誠 (名柄中)	
岸良 明彦 (奄美少年自然の家)	小川 正嗣 (奄美市教育委員会)	小峯 三朗 (大島教育事務所)	

授業モデル2（中学校第3学年「私たちと国際社会の諸課題」）

- 1 単元名 中学校第3学年「これからの地球社会と日本（3/7）」
 2 目標 よりよい社会を築いていくために、奄美群島の日本復帰運動を通して多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明することができる。（思考・判断・表現）

授業充実の3ポイント を踏まえた学習過程	主な学習活動	時間(分) 形態	教師の具体的な働きかけ
【目標の明確化】 興味関心が 生まれる導入	1 どのような未来の奄美にしたいかの事前アンケート結果を確認する。 2 奄美群島の歴史・文化および日本復帰70周年ということを知る。 3 本時の学習課題を設定する。	10 一斉	○ 思考の変容がわかるようにするために、他者の考えと比較しながら現在の自分の考えを確認する。 ○ リーフレットを基に、奄美群島日本復帰までの歴史を確認し、今年が復帰70周年であることに着目し、本時の課題につなげる。
	占領下の奄美の人々がどのような思いで暮らしていたかを探り、これからの社会において、自分ができることは何だろうか？		
【山場の工夫】 課題〔問題〕 意識の焦点化	4 どのような立場の人の思いや暮らしについて調べたいかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; display: inline-block;"> ・子ども ・子どもや学生 ・労働者 ・本土の人 ・アメリカ人 ・女性や高齢者 ・泉芳朗 ・日本政府 </div> 5 それぞれの立場の人の思いや暮らしについて資料を基に調べ、まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; display: inline-block;"> 労働者 ・どんなに働いても給料が安く、食べるものにも苦勞していたんだなあ。日本に復帰したら、暮らしが良くなるのではないか。 </div> 6 他のまとめを読んで、質問を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; display: inline-block;"> 労働者 ・なんで沖縄に出稼ぎにいったのだろうか。 ・なぜ黒糖生産が減ったのだろうか。 </div> 7 質疑応答を通して、それぞれの立場の人の思いや暮らしについて知り、多角的に考えを深める。	5 個 10 ペア 9 ペア 8 一斉	○ 学習者主体となるために、自分の興味・関心のある立場の人を選択させる。（学習者主体の授業づくり） ○ ロイロノートを通して個別の学習状況を把握し、必要に応じて支援を行い、自分の考えをまとめさせる。（ICTの活用） ○ 生徒がまとめをしやすくするために、教師がキーワードを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; display: inline-block;"> ・生活が大変 ・日本復帰 ・一丸 ・祖国 ・伝統 ・未来 ・先人の思い ・日本人としての誇り ・戦争 ・平和 ・全島民 ・使命 </div> ○ 個別の学習状況を把握し、必要に応じて支援を行い、質問を考えさせる。（ICTの活用） ○ 次時以降の学習のために、質疑に関して記録を残す。
【確かめ・見届け】	8 奄美群島の日本復帰に関する動画を視聴する。 9 本時の学習を振り返る。 10 動画視聴で復帰時の奄美の様子を知り、どのような未来の奄美をつくりたいかの見通しをもつことで、次時につなげる。	2 一斉 3 個人 3 一斉	○ 様々な立場の人の思いが復帰運動につながったことを理解させるために動画を視聴させる。 ○ 個に応じたまとめの仕方を提示する。（自由記述、キーワードをつなげる、言葉を埋めさせる等） ○ 他の人の発表を踏まえたまとめとなっているかを確認する。 ○ 「復帰の中に生きた人々」の動画を通して、これからの社会のために自分ができることを考える意欲を高める。 ○ 次時の予告をする。